

5. 希少種

今回の調査で確認された環境省、福岡県のレッドデータブック掲載種は、植物 7 種、動物 12 種であった。平成 15 年度調査での確認種は、植物 4 種、動物 4 種であり、総じて希少種の確認種数は増加しているが、オニバス、ベニイトトンボの 2 種が今回の調査では確認できなかった。いずれも溜池の水辺に依存する種であり、水辺環境の単純化、冬季の乾燥など環境の劣化が懸念される。

(1) 植物

春日市で確認された環境省、福岡県のレッドデータブック掲載種（平成 15 年度調査及び今回調査）の状況を以下に示す。このうち、平成 15 年度に確認された種で、今回調査で確認されなかったものにオニバスが挙げられる。本種は一年草で、発芽の際に十分な光を必要とする。生育地として知られていた場所であっても、池干し等が行われなくなることによる水位変動の消失や、その他の種の優占による水面の被覆により、確認できなくなったという報告が各地でなされている。春日市の生育地である社池においても、生育環境の変化に伴い見られなくなったと考えられる。ただし、オニバスの種子は生命力が強く、溜池の底泥に残されていれば、池干し、耕起により再生する可能性は高い。

また、今回の調査で確認された種の中には、ミズマツバ、アオイゴケのように外部からの土の搬入や、緑化樹木の根鉢についていた土によりもたらされた可能性のあるものもみられる。これらは、保全対象とするよりも、園芸種的な取り扱いをする必要があると考えられる。

■表 24 春日市で確認された希少種（植物）一覧

	種 名	出現状況		指定理由	
		H15年度調査	今回調査	環境省RDB	福岡県RDB
植物	オニバス	○	—	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類
	モウセンゴケ	○	○	—	絶滅危惧Ⅱ類
	ツクシナルコ	○	○	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類
	カワヂシャ	○	○	準絶滅危惧	準絶滅危惧
	ミズマツバ	—	○	絶滅危惧Ⅱ類	—
	アオイゴケ	—	○	—	準絶滅危惧
	ヒメコウガイゼキショウ	—	○	—	絶滅危惧ⅠB類
	ノグサ	—	○	—	絶滅危惧Ⅱ類

①オニバス

平成 15 年度には社池で数株が確認されているが、今回の調査では確認できなかった。

②モウセンゴケ

春日貯水池で春季および夏季に確認。土手の水が滲み出している斜面で群生し

ているのを確認した。平成 15 年度に確認されたものが、現在も残存、維持されていることが確認された。適度な水の滲み出しと、定期的な採草が本種の生育に適した環境を保っている。

③ツクシナルコ

白水大池公園では春季に、3 株を確認した。惣利池では春季および夏季に 100 株以上の群落を確認した。平成 15 年に確認されている社池および大牟田池では確認されなかった。大牟田池については水際の全域を探索していないので、現在も生育している可能性はある。

④カワヂシャ

牛頸川 1 では春季に数株を確認した。春日公園では夏季に 1 株を確認した。平成 15 年度に確認された牛頸川の御潮井橋付近では、河川改修のためコンクリートが敷かれており、確認できなかった。消失したと考えられる。

⑤ミズマツバ

春日公園内で秋季に生育を確認した。

本種は水田雑草であり、公園内で稲作をする際に持ち込まれた土に起因する可能性が考えられる。

⑥アオイゴケ

春日公園内で秋季に生育を確認した。人為的攪乱の多い公園内での生育であり、移入等の可能性が考えられる。

⑦ヒメコウガイゼキショウ

清掃工場側の水田の畦で春季に 10 株を確認した。

⑧ノグサ

春日貯水池で春季に 100 株以上群生しているのを確認した。福岡県では生育確認場所が非常に少なく、希少である。

(2) 動物

春日市で確認された環境省、福岡県のレッドデータブック掲載種（平成 15 年度調査及び今回調査）の状況を以下に示す。このうち、平成 15 年度に確認された種で、今回の調査で確認されなかったものにベニイトトンボが挙げられる。本種は、水生植物の繁茂する比較的古い溜池に分布し、春日市では大牟田池、社池の 2 箇所で確認されていた。かつての環境情報として比較できるデータはないが、市内の溜池にはブラックバスやブルーギルなどの捕食者となり得る外来生物の侵入が報告されており、今回調査で確認できなかった理由として、これら生物の捕食も示唆される。

■表 25 春日市で確認された希少種（動物）一覧

	種名	出現状況		指定理由	
		H15年度調査	今回調査	環境省RDB	福岡県RDB
哺乳類	アナグマ	—	○	—	準絶滅危惧
鳥類	ミサゴ	○	○*	準絶滅危惧	準絶滅危惧
	カササギ	○	○	—	保全対策依存種
	キビタキ	—	○	—	準絶滅危惧
	アオバズク	—	○	—	絶滅危惧Ⅱ類
爬虫類	イシガメ	—	○	情報不足	準絶滅危惧
昆虫類	ベニイトトンボ	○	—	絶滅危惧Ⅱ類	—
	ハルゼミ	—	○	—	準絶滅危惧
	コムラサキ	—	○	—	絶滅危惧Ⅱ類
魚類	メダカ	○	○	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
	ヤマトシマドジョウ	○	○	絶滅危惧Ⅱ類	—
	オヤニラミ	—	○	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
貝類	モノアラガイ	—	○	準絶滅危惧	—

※動植物相調査時には確認されなかったが、平成22年12月4日、白水大池公園での観察会で確認した。

①アナグマ

春日神社周辺において、秋季にアナグマのものとみられる古い巣穴と、周辺での掘り返し跡を確認した。当該地は春日市内でも数少ない自然林地区であり、現在でもアナグマの生息の可能性が高い。

②ミサゴ

動植物相調査時には確認されなかったが、平成 22 年 12 月に実施した白水大池公園での観察会の際に、飛翔中の 1 個体を確認した。本種は魚食性のタカの仲間であり、採餌のために訪れたと考えられる。

③カササギ

牛頸川 3 で夏季に 1 個体、白水大池公園で夏季に 1 個体を確認。牛頸川 3 では川に隣接する住宅地で夏季に 1 個体を鳴き声で確認した。白水大池公園では夏季に植栽された樹木にとまっている 1 個体を確認した。いずれも巣は確認していない。また、春季にはカササギは確認されず、各調査地点での営巣もみられなかった。

④キビタキ

春日市南部の樹林地内でさえずっている 1 個体を春季に確認した。当該地で繁殖していると考えられる。なお、現地調査では繁殖期には確認されていないが、白水大池公園は森林の規模が大きいため、キビタキの繁殖の可能性が考えられる。また、秋季には大牟田池、春日公園、白水大池公園、春日市南部の林地で確認しているが、これらは渡り途中に立ち寄ったものと思われる。

⑤アオバズク

春日神社周辺で春季の夜間に飛翔している 1 個体を確認した。当該地で繁殖していると考えられる。また、元宮公園、白水八幡宮、天神山水城跡の 3 地点は現地調査では確認されていないが、営巣木となり得る木の存在、樹林地規模より生息の可能性が考えられる。

⑥イシガメ

牛頸川 1 で夏季に 1 個体を確認した。近年イシガメは生息数が激減しており、河川中流域や市街地の溜池ではほとんどみられなくなっている。今回確認されたのは、大雨により増水した後だったため、上流域から流されてきた可能性がある。

⑦ベニイトトンボ

平成 15 年度調査では大牟田池、社池の 2 箇所を確認されているが、今回の調査では、いずれの地点においても生息確認できなかった。本種は水生植物の多様な水辺に生息する種である。植生状況の変化や捕食者となる外来生物の侵入などの環境変化が消失の原因となっていると考えられる。

⑧ハルゼミ

春季に白水池と大牟田池で鳴き声により確認した。本種はマツ林に生息するセミ類であり、マツ林であれば普通にみられる種である。

⑨コムラサキ

春日公園で夏季に 1 個体確認した。本種の食草であるヤナギ類がみられる環境であれば、比較的普通に生息している。

⑩メダカ

白水池で春季に多数の個体を確認した。後背部分の水深の深い場所には、ブルーギル、ブラックバス等、捕食者の魚影を確認しており、メダカの生息環境は当該地区に限られている。

この他、指標種調査において、春日公園でメダカが確認されている。

⑪ ヤマトシマドジョウ

牛頸川 3 の円入橋付近で秋季に 1 個体を目撃した。本種は水の比較的きれいな中流から上流に生息する種である。春日市内では個体数は少ないものの、平成 15 年度調査でも確認されており、同河川での個体群の維持が確認できた。

⑫ オヤニラミ

牛頸川 2 の春日野小学校前で、秋季に 1 個体を確認した。本種は抽水植物の繁茂する流れの緩やかな場所を好む種である。市内の河川にはこのような環境はほとんどなく、主要な生息地にはなっていないと考えられる。

⑬ モノアラガイ

諸岡川 1 の地点で秋季に確認した。河床に設けられた 80cm 四方の凹みが藻類の定着基盤や、流速の多様化をもたらす効果を生み出しており、本種の生息環境として機能していると考えられる。